

美術館ニュース

群馬の森

no. 196
2024 4/1

コレクションの つくりかた / 日本と西洋の 近代美術 つたえかた



Ways of making museum collections and
how to communicate them

2024年4月20日[土] - 6月23日[日]

会場: 展示室 1

休館日: 毎週月曜日(ただし4月29日、5月6日は開館)、5月7日(火)

開館時間: 午前9時30分 - 午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料: 一般 600 (480)円、大高生 300 (240)円

* () 内は 20 名以上の団体割引料金

* 中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者 1 名は無料

* コレクション展示(2階展示室)は改修工事のためご覧いただけません。



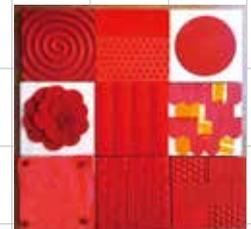
ピエール=オーギュスト・ルノワール
《読書するふたり》1877年



クロード・モネ《ジュフォス、夕方の印象》
1884年(群馬県企業局寄託作品)



湯浅一郎《パリのアトリエにて》
1909年



鑑賞サポートツール
「赤のさわるコレクション」(20点組)
より9点、2013年 デザイン: 齋藤名穂

本年、当館は開館50年を迎えます。長い月日をかけて収集が重ねられた本コレクションは現在約2,100点を数え、日本近代洋画、西洋の近代美術、国内外の現代美術、日本と中国の古美術、日本画、染織工芸など幅広い分野にわたります。本展では、そのなかから日本の近代洋画と西洋の近代美術のコレクションを取り上げ、代表的な作品約100点をご紹介します。美術作品はそれぞれの作者の芸術家人生の断片であり、唯一無二の個性と魅力を持っています。制作や収集背景をひもとく解説とともに、作品との対話をお楽しみください。

また、美術館はコレクションした作品の魅力を広く伝える役割を担っています。今回は、収蔵作品の公開や展覧会出品について、さらに作品鑑賞をサポートするさまざまなツールの開発など、コレクションのコミュニケーションについてもご紹介します。

* 会期中、版画作品等の展示替があります。

【関連事業】

記念講演会 ※2F講堂、申込不要(定員100名) 参加無料

1. 「The Museum of Modern Art をめざして

— 群馬県立近代美術館のコレクションで見るモダンアートの歴史 —

講師: 岡部昌幸(当館特別館長、帝京大学名誉教授) 4月20日(土) 午後2時-3時30分

2. 「うつりかわる藤田嗣治像 — 群馬近美《人形を抱く少女》収蔵からの32年 —

講師: 林 洋子(美術史家、兵庫県立美術館館長) 5月25日(土) 午後2時-3時30分

3. 「ミュージアムの中で、'さわる'からはじまる時間をデザインする」

講師: 齋藤名穂(建築家、デザイナー UNI DESIGN 主宰) 6月9日(日) 午後2時-3時30分

学芸員による作品解説会 ※展覧会場、申込不要 要観覧料

5月1日(水)、5月18日(土)、6月16日(日) 午後2時-3時

開館 50 周年を迎えて 一思いが込められた美術館

群馬県立近代美術館特別館長 岡部昌幸

今から 200 年前、1824 年 5 月に、ロンドンで、ナショナル・ギャラリーが開館しました。

ルネサンスから 1900 年頃までの美術の名品 2,000 点以上を収蔵するこの美術館は、それまでの西洋の美術館が王侯貴族のコレクションと宮殿をもとに設立されたのと違い、「絵画をコレクションすることは最終目的ではなく、人々に高貴な楽しみを与えるための手段にすぎない」という理想をかかげ、何も無いところから構想されたものでした。その後、歴代館長の指導のもと名品が収集され、所蔵作品の 3 分の 2 は個人の寄贈からなっています。

その約 100 年後の 1927 年に設立されたニューヨーク近代美術館は、芸術文化を支えた 3 人の女性のフィランソロフィー(慈善)によって発案され、当時は前衛美術であった印象派と 20 世紀美術の収集と展示の構想をもとに、彼女たちが購入、寄贈することから始まりました。

群馬県立近代美術館は 1974 年 10 月 17 日に開館しますが、県立では全国でももっとも早い時期に創立した館のひとつでした。創設にあたっては、建設用地の確保に加え、群馬の芸術文化の育成に貢献した井上房一郎氏の働きかけやコレクション寄贈のほか、県内の多数の支援者と美術家の協力がありました。今、開館 50 周年を迎え、木々が豊かに繁茂する群馬の森公園を背景に、ガラス張りの幾何学的な建築の威容を輝かせる美術館には、かつてナショナル・ギャラリーやニューヨーク近代美術館の開館にも寄せられた熱い思いが、重ねられて感じられます。



現在のロンドン・ナショナル・ギャラリー



創立時のニューヨーク近代美術館(ヘルシャービル 12 階)



群馬県立近代美術館

群馬県立近代美術館 50 周年記念 近美×館美連携イベント 展覧会チケットで記念缶バッジをプレゼント

「開館 50 周年記念 コレクションのつくりかた／つたえかた」展の会期中(4 月 20 日～6 月 23 日)、本展と群馬県立館林美術館の「シンフォニー・オブ・アート—イメージと素材の饗宴」展の両方を観覧されたお客さまに、50 周年記念オリジナル缶バッジをプレゼントします。詳細は館 HP をご覧ください。

M u s e u m | N e w s

群馬 AIR アートプロジェクト 2023 成果発表展

2024 年 4 月 23 日 [火] - 5 月 6 日 [月・振休] ※会期中無休

会場：ホール、ブラウジング、講堂等

観覧料：無料

主催：群馬県、公益財団法人群馬県教育文化事業団

「群馬 AIR アートプロジェクト 2023」に参加し群馬県内でアーティスト・イン・レジデンスを行った 5 人の作家による成果発表展です。館内各所に展示される多彩な作品をお楽しみください。



「群馬 AIR アートプロジェクト 2023 成果発表展」佐藤侑奈による展示風景

改修工事の工期延長と2階展示室の休室について

前号でお知らせしたとおり、当館では昨年からの建築・設備の改修工事を行っており、12月20日から今年3月1日までは全館休室していましたが、新年度も引き続き工事が行われることになっています。

受変電設備更新工事では、高圧ケーブルや受変電設備、館内各所の分電盤とそこに繋がる幹線ケーブルの更新が順次行われています。主にバックヤードでの作業となり、また停電が伴う工事は休館日に行うなど、できるだけ来館者の皆様にご迷惑がかからないよう工事を進めています。

特定天井改修工事は、2階現代美術棟の展示室3で行われています。床から10mを超える高さのある天井と、約7mの高さの下がり天井をすべて解体し、鉄骨等で補強した上で新たに天井面を設置していく工事となります。1月中旬に床から天井までの全面足場が組み上がり、2月から3月にかけて既設天井の解体が行われたところです。今後、新たな鉄骨や天井下地を取り付ける作業へと進んでいき、工事完了は6月末を見込んでいます。

この工事中は2階の展示室をすべて休室とさせていただき、7月13日から始まる企画展示「おいしいボタニカル・アート」と同時に再開する予定です(工事の進捗により変更になる場合もあります)。この間、収蔵作品をご覧ください機会が限られてしまうのは心苦しい限りですが、1階の展示室1では企画展示「コレクションのつくりかた／つたえかた」を開催していますので、ご来館いただければ幸いです。



展示室3 下がり天井下に組まれた足場の様子
(2024年1月25日撮影)

T o p i c s

「群馬青年ビエンナーレ2025」の開催について

「群馬青年ビエンナーレ」は、隔年で開催している、16歳から29歳までの若手作家を対象とした全国公募展です。施設改修工事のため「群馬青年ビエンナーレ2023」は中止とさせていただきますが、次回の「群馬青年ビエンナーレ2025」は、2024年秋に作品募集開始、2025年夏に展示会の開催を予定しています。詳細は、募集要項(2024年秋頃配布予定)をご確認ください。

友の会 令和6年度 継続・新規会員募集中

友の会は、会費や館内ショップの利益を活用し、近代美術館を支援している団体です。会員には県内5つの美術館の観覧料の減免等、様々な特典があります。是非この機会にご入会ください。

■会員の種類と年会費 [有効期間は4/1～翌年3/31]

一般会員 2,000円 / 学生会員 1,000円

家族会員 [同居2人分] 3,000円 [3人以上は1人につき1,000円追加]

個人賛助会員 [一口] 10,000円 / 法人賛助会員 [一口] 20,000円

■観覧料が減免となる美術館

群馬県立近代美術館・群馬県立館林美術館 [両館あわせて年間2回無料、ほか半額]

高崎市美術館・高崎市タワー美術館・高崎市山田かまち美術館 [団体割引相当額]

■主な事業

* 展覧会・教育普及事業・広報への支援・協力のほか、講演会やコンサート等を開催。

* 会報の発行、ミュージアム・ツアーなど、会員のための事業を実施。

◆ミュージアムショップより

* 展覧会カタログの通信販売を行っております。

申込方法など詳しくは、美術館HP>利用案内>ショップ>主要商品>ショップ通信販売をご確認ください。

* 開館中の店頭ではクレジット・電子マネー決済をご利用いただけます。

Museum : Shop

お問い合わせ：群馬県立近代美術館 友の会 TEL 027-346-5560 (館代表) / FAX 027-346-4064

友の会だより



令和5年度 秋のミュージアム・ツアー
「アートビオトープ那須」にて

画面左から真横に、そして右上で急に真上へと伸びる笹竹。その節からは上に向かう力に対するかのように、右下へと細い枝葉が垂れている。笹竹に絡んだ葛は、その鮮やかな緑青の葉が目をはきくが、それぞれ反りやよれがあり、同じ形を繰り返さない。葉に隠れるようにして控えめに咲く水色と薄紅色の花は散り残ったものか、花の後にできたであろう豆の鞘もみえる。笹竹も葛も墨線の輪郭をとり、鮮やかな色彩で明確に描かれている。植物と対照的なのが、主に墨の濃淡で表現された藻屑蟹^{もくずがに}。秋の深まった頃、川を下る一場面であろう。蟹は中国で吉祥的な意味を示すモチーフでもあり、鉢や脚の毛など細部まで丁寧に描写されている。先行研究では、常陸太田の耕山寺に住した画僧、性安^{しやうあん}の《蟹図》(栃木県立博物館蔵)の影響と近似性があげられているが、雪村において、本図のような着色の中国院体花鳥画風の写実的表現は少なく、初期の貴重な作例である。後の彼の自由な筆と比べれば、平面的で謹直、初々しい印象で、中国絵画の真摯な学習と、より自然な形態や質感に迫る緻密な筆遣いから彼自身の観察眼を感じさせる。一方で、藻屑蟹が顔を覗かせる土坡、もしくは岩は、斜めに傾き奇妙にも柔らかに波打つ。笹竹や土坡に見られる不思議な動きのある線と形態は、後の雪村らしさの片鱗をみせたといえるだろう。

なお、画面左下に朱文方印「雪村」が捺されるが判別が難しい。箱蓋裏には「旧屏風貼付八図中ノ一」の墨書があり、もとは八図が屏風に貼り交ぜられていたと考えられる。ほかに《芙蓉、竹に兎図》、《花鳥図》、《薔薇、葦に猫図》が知られ、八図とも花鳥画であったことだろう。

雪村は室町時代後期の画僧で、字が雪村、法諱を周継^{しゅうけい}という。常陸国部垂^{ひたちのくにへたれ}(現在の茨城県常陸大宮市)の武家、佐竹氏一族に生まれたが出家し、常陸太田の正宗寺に入る。後に会津、小田原、鎌倉などを経て再び会津へ、晩年は三春(福島県)周辺に住んだ。『本朝画史』においては雪舟に私淑したと記されるが、その自由で個性的な線が人々を魅了する作家であり、現在、雪舟と並び高く評価されている。



雪村周継《葛花、竹に蟹図》室町時代
絹本着色・軸装 31.0×37.6cm
戸方庵井上コレクション

次回展覧会案内

英国キュー王立植物園 おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり

2024年7月13日[土] - 8月25日[日]

会場: 展示室1

休館日: 毎週月曜日(ただし7月15日、8月12日は開館)、7月16日(火)

開館時間: 午前9時30分 - 午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料: 一般900(720)円、大高生450(360)円

* () 内は20名以上の団体割引料金

* 中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

本展は20万点を超える世界最大級のボタニカル・アート・コレクションを収蔵する英国キュー王立植物園の協力のもと開催されます。世界に先駆けて近代化を進めた英国は世界各国で植物を発見し食材として求め輸入しました。最初は珍しさに注目して、植物画として精確にまた美しく記録し、書物や雑誌に掲載して情報を広め、それが植物の研究や鑑賞へと広がります。やがて英国の生活文化の中に喫茶の楽しみやスパイス豊かな料理が根づいていきました。本展は全6章から構成され18-19世紀の英国の豊かな食を巡る植物のものがたりを、食材、料理、嗜好品にまつわる華麗なボタニカル・アートを中心に、関連する絵画や工芸、さらに料理のレシピ本も加えて、約200点の作品によりご紹介します。

主催: 群馬県立近代美術館
協力: 日本航空
後援: プリティッシュ・カウンスル
特別協力: 英国キュー王立植物園
企画協力: 株式会社ブレントラスト



リンゴ《デヴォンシャー・カレンデン》



イチゴ《ウィルモッツ・レイト・スカーレット》

以上2点とも ウィリアム・フッカー 1818年
ステッブル・エングレーヴィング、アクアチント、
手彩色/紙 34.5 x 26.0cm 個人蔵
Photo: Michael Whiteway

